

## 創立50周年を迎えて想う



栃木県看護連盟会長  
伊藤正子

去る6月18日の「看護連盟創立50周年記念式典」に来賓の先生方と会員350名が出席を頂き、有難うございました。高階恵美子先生も当選後初めて大勢の皆様とお会いできることができました。私たちの代表が国政の場で大活躍し、被災地でも阿部俊子先生と協力し中心になって救援活動に努めていることは大変光栄なことです。

また当日、表彰を受けられた37名の皆様方も長い間連盟活動にご尽力下さり、本当に有難うございました。

記念講演では、政治・経済・医療・福祉・命の問題まで報道の最前線で活躍され、この度神奈川県知事に就任されました黒岩祐治先生をお招きし、「看護と政治」についてのご講演をいただきました。看護職の力強い支援者としてご尽力いただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

今年度も「ベッドサイドから政治を変える」をスローガンに掲げ、～確かな政策実現力を持ち、そして東日本大震災の復興に看護の力を結集しよう～を目標に活動開始することに致しました。確かな政策実現力のある組織づくりを目指すには、組織力・集票力・人材力を強めていくことが重要です。今回の厚生労働省の通知の「看護師等の雇用の質の向上に関するプロジェクトチームの報告書」に基づく3つの取り組み（①職場づくり・人づくり②ネットワークづくりを目指し）を実現させていくためにも連盟の役割は大きくなる一方です。次期参議院選挙に向けては、まず会員増と選挙に参加することを確認し合い、目標数7500票が獲得できるように努力したいと思っています。まだ候補者は決まりませんが、いつ決まつても万全の準備が出来ているように頑張りましょう。前回の選挙の反省では会員の50～60%が棄権していることが解りました。一生懸命活動したのに・・・と思いますと残念でもったいないことです。次回は会員全員の参加を目指して、7500以上の票を獲得し、看護職の底力を存分に出して、上位当選できるように頑張りましょう。

皆様方の力強い応援をくれぐれもよろしくお願い致します。

## 先行きは厳しいしかし…



日本看護連盟会長  
清水嘉与子

福島原発の事故を受けて、7月1日から本格的な節電の夏が始まりました。大口需要者の節電義務付けだけでなく、一般家庭でも節電努力が求められています。しかし連日30℃をゆうに超す暑さ、熱中症対策のためにも行き過ぎた節電はなさいませんように。

日本看護協会総会で会長が交代し、翌週行われた看護連盟総会では坂本新協会長が連盟との協力関係の重要性を述べられるなど、協会・連盟関係は新しい時代に入りました。

東日本大震災から早くも5ヶ月というのに課題はまだ山積。こんな中での引退を表明したはずの菅総理の行動をめぐって国会が膠着状態になっているのは困ったものですが、看護連盟としては今後の政治情勢に目を配りつつ、超高齢社会を迎えるわが国で、看護職が専門職として貢献できる看護政策実現のために、国政の場へ看護の代表を送るという活動を引き続き進めなければなりません。

次期選挙は議員定数の見直しなどこれまで以上に当選のハードルが厳しくなることが予想されていますが、必ず成功させることを目指し、日本看護連盟は今年は支部組織づくりを連盟の重点目標にかけて活動を展開します。栃木県に置かれても伊藤会長を中心に、支部活性化に向けて一層ご活動くださることを期待しております。